

アメリカ連邦政府

日本語版

Evidence-Based Practices

(科学的根拠に基づく実践プログラム)

実践・普及ツールキット 発行のお知らせ

個別募金のお願い

4プログラムの実施・普及を、全国各施設・事業所で進めるために、
各巻ごと(各3,000円)の頒布が可能になりました。

- 包括型地域生活支援プログラム (ACT; Assertive Community Treatment)
- 家族心理教育 (FPE; Family Psycho-Education)
- IPS・援助付き雇用 (SE; Supported Employment)
- 疾病管理とリカバリー (IMR; Illness Management and Recovery)



全5巻
実践紹介ビデオDVD付
(Total : 7 時間 18 分 32 秒)

アメリカ連邦政府 EBPツールキット日本語版について

アメリカ連邦保健省薬物依存精神保健サービス部 (SAMHSA) では、科学的根拠に基づく実践プログラム (EBP; Evidence-Based Practices) の実施・普及を進めるために、EBP 実施・普及ツールキットの発行を準備中です。日本精神障害者リハビリテーション学会は、SAMHSA の承認を得て、他の関係団体と協力しながら、その最終草稿に基づいて4プログラムの EBP 実施・普及ツールキット日本語版を出版することにしました。そのプログラムとは、上記のとおりです。

精神障害をもつ人々に対する科学的根拠に基づく実践プログラム (EBP) は、家族心理教育や包括型地域生活支援プログラム ACT など、薬物療法に匹敵する効果を示しています。しかし、その一方で、ニーズを持つ僅かの人たちにしかそのプログラムが適用されていないことが知られています。これは、薬物療法が医師個人の判断で

使用できるのに対して、EBP は多くの場合、病院や地域ケア体制などのシステムを変更しなければ取り組めない特徴があるためと考えられています。

これに対してアメリカでは、EBP に基づく心理社会的介入プログラムの実施を容易にするためのツールキットが開発されています。それを全国的に普及するための取り組みが、連邦政府 SAMHSA の EBP 実施・普及ツールキットプロジェクトなのです。

日本精神障害者リハビリテーション学会は、精神保健福祉に関わる多くの関係者が、これらプログラムのツールキット日本語版を活用して EBP の実施・普及を進め、そしてニーズのある多くの精神障害をもつ皆さんがこれら EBP プログラムを活用し、自らの望むより良い地域生活を営めるようになることを心から願っています。

日本精神障害者リハビリテーション学会

発刊にあたって

それは 2003 年 10 月のことであった。カンサス大学社会福祉学部の Rapp 教授から 1 通の手紙と共にビデオ付きのマニュアル本が送られてきた。その手紙には、このマニュアル本が何らかのお役に立てば幸いですと控え目にしたためられていた。Rapp 教授は「精神障害者のためのケースマネジメント」(金剛出版、1998 年)の原著者であり、私はその著を監訳して我が国に紹介したことから旧知の間柄であった。私は、そのマニュアル本を見て感動した。それを見ると、その技術が精神障害者の地域リハビリテーションを進める上で有用であることが、精神障害者自身、その家族、支援者、管理者、行政担当者に懇切に説明されていた。またその技術の用い方が懇切丁寧にマニュアル化されていた。その技術は、多くの有効性研究を生き抜いてきたものであり、しかも米国のような多文化社会でも文化を超えて利用されてきたものであった。それは、米国保健省の薬物乱用・精神保健局が作成していた Evidence-Based の地域リハビリテーション技術のマニュアル本の 1 つである Supported Employment (援助付雇用) のマニュアル本の第 2 試作版 (2002 年) であった。

我が国では、入院治療の時代から地域リハビリテーションの時代に移ろうとしている。それを推進するためには、財政的支援のみならず、それを可能とする地域リハビリテーション技術が必要である。しかし現状では、多くの精神保健医療福祉関係者に共有されている地域リハビリテ

ションの技術はないように思われる。

私は、これらの地域リハビリテーション技術のマニュアル本が地域リハビリテーションの時代を迎えようとしている我が国においても必要であると確信した。その後、私はこのマニュアル本を我が国に導入する方法について模索を始めた。その中で、旧知の大島巖教授 (日本社会事業大学) も私と同じ意図を持っていることを知った。二人で協議した結果、これは多くの専門家の協力を必要とする大きなプロジェクトであるから、日本精神障害者リハビリテーション学会として取り組むのが良いのではないかとということになった。そこで 2005 年 5 月、同学会の理事会に上記の提案をして承諾を得た。その結果、EBP ツールキット小委員会が設置され、大島巖教授にその委員長を引き受けて戴いた。その後、大島委員長が精力的にこのプロジェクトに取り組まれると共に、多くの専門家に翻訳の協力を頂いた。さらには、我が国の地域リハビリテーションを推進しようとする趣旨に賛同された多くの企業から資金的援助を受けて今回の発刊に至った。ご協力頂いた皆さんに心より感謝申し上げます。

これを機に、我が国の精神障害者の地域リハビリテーションがさらに充実し発展することを願ってやまない。

2008 年 10 月 30 日

日本精神障害者リハビリテーション学会 前会長
江畑敬介

EBP (Evidence-Based Practices) ツールキットとは

EBP (Evidence-Based Practices) とは薬物療法に匹敵する効果が実証されている心理社会的介入プログラムのことです。EBP ツールキットは、精神障害をもつ人々に対して EBP プログラムを実践可能な援助方法・支援システムとして提供するものです。



*ACT (Assertive Community Treatment) : 包括型地域生活支援プログラム *FPE (Family Psycho Education) : 家族心理教育
*SE (Supported Employment) 援助付き雇用 *IMR (Illness Management and Recovery) 疾病管理とリカバリー

EBPツールキット日本語版発行の体制

EBPツールキットは、アメリカ連邦保健省薬物依存精神保健サービス部(SAMHSA)が発行する有効なプログラムの実施・普及を支援するツール(ワークブック・資料・DVDなど)であり、日本精神障害者リハビリテーション学会がSAMHSAの承認を得て、関係団体と協力しながら、日本語版を出版します。



日本語版発刊に寄せて

日本精神障害者リハビリテーション学会によって発刊される日本語版科学的根拠に基づく実践プログラム・ツールキットを、心から喜んで推薦いたします。アメリカでは、重い精神障害をもつ人々に対して効果的な支援プログラムを行き渡らせるための懸命の努力を続けているところです。ゆっくりですが、確実に成果があがっています。

日本における精神保健福祉システム改革へのアプローチは、アメリカよりもより速やか、かつより効果的なものになるだろうと確信しています。日本の保健医療システムはより一貫性があり、かつ体系化されており、その品質管理に対する取り組みは、他の国々のモデルになっています。皆さん方が、科学的根拠に基づく実践を前進させていることに心から敬意を表したいと思います。

皆さまのご成功をお祈りしています。

2008年11月5日

ロバート E. ドレイク, MD, PhD
(アメリカ連邦政府 EBP 実施・普及
ツールキットプロジェクト責任者)

読者層

- 精神科病院・診療所、社会復帰施設、小規模作業所、グループホームのスタッフ・管理者
- 都道府県精神保健福祉センター、保健所・市町村の精神保健福祉担当者
- 医科系大学精神科、精神保健福祉士養成校、看護師養成校、作業療法士養成校などの教員・学生
- 企業の産業精神保健部門の担当者、など

編集・監修

日本語版の監修は、精神障害をもつ方々の社会復帰の専門家、各大学教授が監修を行い、対象となる読者層も病院、公的機関、教育機関と幅広い普及を目指す。

監修

日本精神障害者リハビリテーション学会

責任訳者・日本語版編者

- 第1巻 EBP ツールキット総論**
大島巖 (日本社会事業大学教授)
- 第2巻 ACT・包括型地域生活支援プログラムツールキット**
I. 本編 II. ワークブック編
伊藤順一郎 (国立精神・神経センター精神保健研究所部長)
鈴木友理子 (国立精神・神経センター精神保健研究所室長)
瀬戸屋雄太郎 (国立精神・神経センター精神保健研究所室長)
- 第3巻 FPE・家族心理教育 (FPE) ツールキット**
I. 本編 II. ワークブック編
後藤雅博 (新潟大学医学部保健学科教授)
大島巖 (日本社会事業大学教授)
遊佐安一郎 (長谷川病院クリニカルコーディネータ)
- 第4巻 IPS・援助付き雇用ツールキット**
I. 本編 II. ワークブック編
松為信雄 (神奈川県立保健福祉大学教授)
西尾雅明 (東北福祉大学教授)
- 第5巻 IMR・疾病管理とリカバリーツールキット**
I. 本編 II. ワークブック編
池淵恵美 (帝京大学医学部教授)
内野俊郎 (久留米大学医学部精神科医師)
平安良雄 (横浜市立大学医学部教授)
- DVD映像資料**
遊佐安一郎 (長谷川病院クリニカルコーディネータ)
大島巖 (日本社会事業大学教授)

EBP実施・普及ツールキット(5巻全9冊)の総目次

第1巻 EBPツールキット総論

■責任訳者・日本語版編者：大島巖

第1章 EBP実施ツールキットとは？

1. 概要
2. EBPとは何か
3. 実施ツールキットとは何か
4. ツールキットをどのように使用するか
5. 用語法について
6. EBPツールキットプロジェクトの解説〔編集責任者〕

第2章 EBPフィデリティ測定とは

第3章 全般的組織指標とは

1. 全般的組織指標 (GOI) とは
2. 全般的組織指標 (GOI) の項目の定義と得点法
3. 全般的組織指標 (GOI) の尺度

第4章 利用者アウトカムのモニタリング

1. 利用者アウトカムのモニタリング

資料

1. 精選文献リスト
2. 利用者アウトカム～四半期・月例報告フォーム
3. 利用者アウトカムモニタリング・バック (COMP)
4. 四半期・月例フォームとCOMPの定義
5. 利用者満足度・リカバリー調査



第2巻Ⅰ ACT・包括型地域生活支援プログラム 本編

■責任訳者・日本語版編者：伊藤順一郎・鈴木友理子・瀬戸屋雄太郎

序章

1. 本巻の構成と位置づけ
2. このプログラムの対象になる利用者

第Ⅰ編 精神保健機関の責任者、行政の担当者向けの情報と実施資料

第1章 このワークブックについて

第2章 精神保健プログラム責任者への情報

第3章 行政の精神保健部局への情報

第4章 精神保健プログラム責任者の実施の工夫

1. 概要
2. 資源とプロセス
3. 経験者の声
4. 複合的な適応システムとしてのACTチーム
5. どのように準備すればよいのか？

第5章 行政の精神保健部局の実施の工夫

第Ⅱ編 ACTフィデリティ尺度

第1章 ACTフィデリティ尺度

第Ⅲ編 資料

1. 用語の定義
2. 包括的アセスメントの実例
3. 援助計画の実例
4. 三折りパンフレット
5. パワーポイント資料
6. 精選文献リスト

DVD (1枚)

1. プログラム紹介ビデオ (15分17秒)
2. 実践紹介ビデオ (41分16秒)



第2巻Ⅱ ACT・包括型地域生活支援プログラム ワークブック編

■責任訳者・日本語版編者：伊藤順一郎・鈴木友理子・瀬戸屋雄太郎

第1章 このワークブックについて

第2章 実施のオリエンテーション (方向性・位置づけ)

1. このワークブックの使用について

(モジュールA)

2. ACTの原則 (モジュールB)

第3章 実践上の知識と技術

1. 重要な概念 (モジュールC)

- 1) リカバリー

- 2) ストレス脆弱性モデル

2. コアプロセス (モジュールD)

3. ACTサービスの要素 (モジュールE)



第3巻Ⅰ FPE・家族心理教育 本編

■責任訳者・日本語版編者：後藤雅博・大島巖・遊佐安一郎

序章

1. 本巻の構成と位置づけ
2. このプログラムの対象になる利用者・家族

第Ⅰ編 精神保健機関の責任者、行政の担当者向けの情報と実施資料

第1章 このワークブックについて

第2章 精神保健プログラム責任者への情報

第3章 行政の精神保健部局への情報

第4章 精神保健プログラム責任者の実施の工夫

第5章 行政の精神保健部局の実施の工夫

第Ⅱ編 家族心理教育フィデリティ尺度

第1章 家族心理教育フィデリティ尺度

第Ⅲ編 資料

1. 資料について
2. 三折りパンフレット
3. パワーポイント資料
4. 精選文献リスト

DVD (1枚)

1. プログラム紹介ビデオ (11分23秒)
2. 実践紹介ビデオ (1時間16分55秒)



第3巻Ⅱ FPE・家族心理教育 ワークブック編

■責任訳者・日本語版編者：後藤雅博・大島巖・遊佐安一郎

第1章 このワークブックについて

第2章 実施のオリエンテーション (方向性・位置づけ)

1. 家族心理教育とは (モジュールA)
2. 家族心理教育の科学的根拠 (モジュールB)
3. 家族心理教育の実践原則 (モジュールC)

第3章 実践上の知識と技術

1. 家族との共同作業 (モジュールD)
2. 家族心理教育についてよく尋ねられる疑問点 (モジュールE)
3. 本人 (individuals) および家族とのジョイニング (モジュールF)
4. ワークショップ形式を用いた家族教育 (モジュールG)
5. 初回および2回目の

複合家族心理教育

- グループセッション (モジュールH)
6. 問題解決技法の導入 (モジュールI)
7. 実践現場からの問題解決法 (モジュールJ)
8. 問題解決法のリスト (モジュールK)
9. その他臨床モデル (モジュールL)
10. 実践家のためのスーパービジョン (モジュールM)



第4巻Ⅰ 援助付き雇用ツールキット 本編

■責任訳者・日本語版編者：松為信雄・西尾雅明

序章

1. 本巻の構成と位置づけ
2. このプログラムの対象になる利用者

第Ⅰ編 精神保健機関の責任者・行政の担当者向けの情報と実施資料

- 第1章 このワークブックについて
- 第2章 精神保健プログラム
責任者への情報
- 第3章 行政の精神保健部局への情報
- 第4章 精神保健プログラム

- 責任者の実施の工夫
- 第5章 行政の精神保健部局の
実施の工夫

第Ⅱ編 援助付き雇用フィデリティ尺度

- 第1章 援助付き雇用
フィデリティ尺度

第Ⅲ編 資料

1. 就労プログラム紹介の実例
2. 職業プロフィールの実例
3. 個別就労計画の実例

4. 職業検索を実施する
～利用者のチェックリスト
5. 職業サポートチェックリスト
6. 三折りパンフレット
7. パワーポイント資料
8. 精選文献リスト

DVD (1枚)

1. プログラム紹介ビデオ (17分12秒)
2. 実践紹介ビデオ (1時間25分17秒)

第4巻Ⅱ 援助付き雇用ツールキット ワークブック編

■責任訳者・日本語版編者：松為信雄・西尾雅明

第1章 このワークブックについて

第2章 実施のオリエンテーション (方向性・位置づけ)

1. 援助付き雇用のオリエンテーション
(モジュールA)
2. 援助付き雇用の科学的根拠
(モジュールB)

3. 援助付き雇用の実践原則
(モジュールC)

第3章 実践上の知識と技術

1. 紹介 (モジュールD)
2. 関係作り (エンゲージメント)
(モジュールE)
3. 生活保護給付金カウンセリング
(モジュールF)

4. アセスメント (モジュールG)
5. 求職活動 (モジュールH)
6. 職業サポート (モジュールI)
7. 利用者との効果的な協働 (モジュールJ)
8. 他の重要な関係者の援助を活用する
(モジュールK)

付録

第5巻Ⅰ IMR・疾病管理とリカバリー 本編

■責任訳者・日本語版編者：池淵恵美・内野俊郎・平安良雄

序章

1. 本巻の構成と位置づけ
2. このプログラムの対象になる利用者

第Ⅰ編 精神保健機関の責任者・行政の担当者向けの情報と実施資料

- 第1章 このワークブックについて
- 第2章 精神保健プログラム
責任者への情報
- 第3章 行政の精神保健部局への情報
- 第4章 精神保健プログラム
責任者の実施の工夫

- 第5章 行政の精神保健部局の
実施の工夫

第Ⅱ編 IMRフィデリティ尺度

- 第1章 IMRフィデリティ尺度

第Ⅲ編 資料

1. IMRの用具
- 1) IMRプログラムへの導入シート
- 2) IMRプログラムに対する
知識と技術に関する質問票
- 3) IMRのための経過記録
- 4) 重要な援助者に関する情報票

- 5) IMRプログラムに
おけるゴール設定
- 6) 段階的問題解決と目標達成
- 7a) IMR尺度～利用者自己評価版
- 7b) IMR尺度～援助者評価版

2. 三折りパンフレット
3. パワーポイント資料
4. 精選文献リスト

DVD (2枚組)

1. プログラム紹介ビデオ (14分16秒)
2. 実践紹介ビデオ (2時間56分56秒)

第5巻Ⅱ IMR・疾病管理とリカバリー ワークブック編

■責任訳者・日本語版編者：池淵恵美・内野俊郎・平安良雄

第Ⅰ編 実践家のための IMRワークブック

第1章 このワークブックについて

第2章 IMRの基礎

1. IMRの紹介 (モジュールA)
2. 組織の構造とプログラムの
手配 (モジュールB)
3. IMRの実践原則と中核的な価値
(モジュールC)
4. IMRに特有の教育原則と
アウトカムの測定 (モジュールD)

第3章 実践上の知識と技術

1. リカバリー戦略～配布資料(1)
への実践家ガイド (モジュールE)
2. 精神疾患に関する実践的事実
～配布資料(2a, 2b, 2c)への
実践家ガイド (モジュールF)
3. ストレス脆弱性モデルと
援助戦略～配布資料(3)への
実践家ガイド (モジュールG)
4. ソーシャルサポートを形成する
～配布資料(4)への実践家ガイド
(モジュールH)
5. 薬物療法を効果的に使う～配布
資料(5)への実践家ガイド
(モジュールI)
6. 再発を減らす～配布資料(6)への
実践家ガイド (モジュールJ)

7. ストレスに対処する～配布資料(7)
への実践家ガイド (モジュールK)
8. 諸問題や持続性の症状に対処する
～配布資料(8)への実践家ガイド
(モジュールL)
9. あなたのニーズを精神保健
システムに適合させる～配布資料
(9)への実践家ガイド (モジュールM)

第Ⅱ編 IMRグループ・ 教育用配布資料

第1章 IMRグループの実施ガイド

1. IMRグループ形式の紹介
(モジュールN)
2. リカバリー戦略～課題(1)に
対するグループセッション・
ガイド (モジュールO)
3. 精神疾患に関する実践的事実
～課題(2)に対するグループ
セッション・ガイド (モジュールP)
4. ストレス脆弱性モデルと援助戦
略～課題(3)に対するグループ
セッション・ガイド (モジュールQ)
5. ソーシャルサポートを形成する
～課題(4)に対するグループ
セッション・ガイド (モジュールR)
6. 薬物療法を効果的に使う～課題(5)
に対するグループセッション・
ガイド (モジュールS)

7. 再発を減らす
～課題(6)に対する
グループセッション・ガイド
(モジュールT)
8. ストレスに対処する～課題(7)に
対するグループセッション・
ガイド (モジュールU)
9. 諸問題や持続性の症状に対処する
～課題(8)に対するグループ
セッション・ガイド (モジュールV)
10. あなたのニーズを精神保健
システムに適合させる～課題(9)
に対するグループセッション・
ガイド (モジュールW)

第2章 個別IMRのための 教育用配布資料

1. リカバリー戦略
- 2a. 統合失調症に関する実践的事実
- 2b. 双極性障害に関する実践的事実
- 2c. うつ病に関する実践的事実
3. ストレス脆弱性モデルと援助戦略
4. ソーシャルサポートを形成する
5. 薬物療法を効果的に使う
6. 再発を減らす
7. ストレスに対処する
8. 諸問題や持続性の症状に対処する
9. あなたのニーズを
精神保健システムに適合させる

● 日本精神障害者リハビリテーション学会のご案内

当学会は、精神障害者のリハビリテーションについて専門的に研究しかつその実践の向上を図ることを目的に創設された我が国では唯一の学術団体です。平成5年に創設にされ、精神科医、ソーシャルワーカー、臨床心理士、看護師、作業療法士などの会員から構成されています。

1981年に、当学会の初代会長を務めた蜂矢は、統合失調症では疾病と障害が共存しているとしました。蜂

矢のこの考え方は、統合失調症を単に医療の対象とするのみではなく、リハビリテーションと福祉の対象としても見直す理論的根拠となりました。

精神障害者には治療とリハビリテーションの両方が必要です。当学会は、精神障害者のリハビリテーションを専門的に研究し、その実践の向上に努力しています。

会長挨拶

日本精神障害者リハビリテーション学会 会長 野中猛

私は、1976年に医師となって、民間の精神病院や総合病院を経て、1988年に埼玉県立精神保健総合センター開設準備のために埼玉県に入職しました。そこで実践した精神障害者リハビリテーションや地域保健の活動が私の貴重な体験となっています。この1990年前後には精神障害領域の多用な動きが湧き上がりました。例えば歴史には波のような現象があり、その動向を見抜き、その力の助けを借りることは大切に思えます。いまの時期、障害者自立支援法体制への移行をめぐって、旧来の政治経済体制も変貌を余儀なくされている昨今も、精神保健改革の好機と言えるでしょう。

思い起こせば1993年に精神障害者リハビリテーションを志向する全国が多職種の関係者のお声をかけ、日本青年館において第1回の研究会を開催しました。

私は最初のお声をかける準備から始まって、本会の活動に継続的にかかわってまいりました。

あらためて、日本精神障害者リハビリテーション学会初代会長の蜂矢英彦先生、2代目の岡上和雄先生、3代目の江畑敬介先生と思い起こせば、お三人のように見識や人格や権威で会を導くことはとてもできそうもありません。

幸いに理事の方々、その次の世代の若い方々に、見事な実践や理論が生まれており、我が国の本領域にも層の厚さを感じるこの頃になってきました。

そこで、私は、事務局型の会長として機能していこうと考えておりますので、会員諸氏には、いままでも以上の積極的な参画によるご活躍を期待しています。



主な活動

- 1) 年1回の学術大会の開催
 - 2) 学会誌「精神障害とリハビリテーション」の発行
 - 3) ニュースレターの発行
 - 4) 研修会の開催
 - 5) 学術図書の発行
 - 6) ベストプラクティスの選定、表彰
- その他、精神障害者リハビリテーションに関わる諸活動

構成員は…

- 精神障害当事者 ● 家族
- 精神科医 ● 看護師
- 保健師 ● 精神保健福祉士
- 障害者職業カウンセラー
- 臨床心理士
- 作業療法士 など

精神障害者のリハビリテーションの関心があり、本学会の理念に賛同してくださる方

入会するためには…

所定の用紙をホームページ上、学会誌より用い、必要事項を記入の上、事務局までファックスまたは郵送でお送り下さい。なお、入会においては、常任理事1名・地区理事1名・正会員2名のいずれかによる推薦が必要となります。

- 年会費 正会員 8,000円
- 賛助会員 10,000円

日本精神障害者リハビリテーション学会

〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-15-16 海洋船舶ビル8階
特定非営利活動法人CANPANセンター ACNet事務局
精神障害者リハビリテーション学会担当

TEL 03-5251-3967 / FAX 03-3504-3909

<http://www.japr.jp/>

FAX 047-320-3871

(この用紙をファクシミリで、上記までお送りください)

申 込 書

日本精神障害者リハビリテーション学会 御中

金 円也 (合計金額)

- 全巻セット 1口12,000円× ____口
- 第1巻(EBPツールキット総論) 1口1,000円× ____口
- 第2巻(ACT・包括型地域生活支援プログラム) 1口3,000円× ____口
- 第3巻(FPE・家族心理教育) 1口3,000円× ____口
- 第4巻(IPS・援助付き雇用) 1口3,000円× ____口
- 第5巻(IMR・疾病管理とリカバリー) 1口3,000円× ____口

この事業の趣旨に賛同し、アメリカ連邦政府 EBP 実施・普及ツールキットの翻訳出版・普及事業の経費として上記の金額の寄付を申し込みます。

【送金先】

銀 行 名： 三菱東京 UFJ 銀行
支 店 名： 市川八幡支店
預金種別： 普通預金
口座番号： 1124836
口座名義： 日本精神障害者リハビリテーション学会
EBP ツールキット翻訳出版小委員会

平成 年 月 日

お申込者： _____

振込人の名義： _____ 振込日(予定日)： _____

ご住所：〒 _____

お電話番号： _____

メールアドレス： _____

お問合せ

日本精神障害者リハビリテーション学会
EBP ツールキット募金・頒布事務局
特定非営利活動法人 地域精神保健福祉機構(コンボ)
〒272-0031 千葉県市川市平田3-5-1 トノックスビル2F
Tel 047-320-3870 / Fax 047-320-3871

EBPツールキット日本語版導入のための個別募金のお願い

～全巻セット12,000円、巻別の場合1巻3,000円(第1巻は1,000円)～

日本精神障害者リハビリテーション学会は、EBPツールキットを、全国の多くの精神科病院や診療所、精神障害者社会復帰施設、地域精神保健福祉機関・団体、精神保健福祉の専門職養成学校（医科系大学、精神保健福祉士養成校、看護師養成校、作業療法士養成校など）、企業の産業精神保健部門などに、できるだけ幅広く導入して頂ければと願っております。

このツールキットは公益的な目的で作成されているために、商業ベースではなく、主に募金によって資金調達を行っております。下記の協賛企業様には多大なご支援を頂き、心より感謝申し上げます。しかし、協

賛企業様のご支援のみでは資金調達が十分ではないために、この事業趣旨にご賛同頂ける皆さまから個別募金を募りたいと存じます。皆さま方には、募金いただいたご希望の巻の EBP ツールキットをお送りさせていただきます。

多くの皆さま方のご支援を頂いて、EBP ツールキット日本語版の導入が全国に進むことを願っております。皆さま方のご理解、ご支援のほどを何とぞよろしくお願い申し上げます。

2010年3月

日本精神障害者リハビリテーション学会
EBP推進委員会委員長 大島 巖

1. 個別募金について

- 1) 募金の名称 EBP ツールキット翻訳出版・普及事業個別募金
- 2) 募金以外の方で入手をご希望の方はご相談ください。
公費などでの入手もご相談させていただきます。



2. 申し込み方法

- 1) 申込先 日本精神障害者リハビリテーション学会 EBP ツールキット募金・頒布事務局
(NPO 法人地域精神保健福祉機構・コンボ内、担当：桶谷、寺本)
別紙申込書で、事前にファクシミリ、電話にてご連絡ください。
Tel 047-320-3870 / Fax 047-320-3871
- 2) 振込口座 三菱東京 UFJ 銀行 市川八幡支店 普通預金 口座番号：1124836
口座名：日本精神障害者リハビリテーション学会 EBP ツールキット翻訳出版小委員会
- 3) 申込金額 ■全巻セット 1 口・12,000 円
■ご希望の巻 1 口・3,000 円（第 1 巻は 1 口 1,000 円）
※何口でも結構です。口数分のツールキットをお送りします。
※申し込み用紙で、事前にご連絡くださいますようお願いいたします。

3. ご寄付をいただいた方の特典

- 1) ご寄付をいただいた方に、ご希望の EBP ツールキットをお送りします。
- 2) EBP ツールキットに関する研修会等のご案内をお送りいたします。
- 3) メーリングリストなどで EBP 普及に関する最新情報を提供いたします。

- お問い合わせ 日本精神障害者リハビリテーション学会 EBP ツールキット募金・頒布事務局
特定非営利活動法人 地域精神保健福祉機構（コンボ）（担当：桶谷、寺本）
〒272-0031 千葉県市川市平田3-5-1 トノックスビル2F
Tel 047-320-3870 / Fax 047-320-3871

■協賛企業

大塚製薬株式会社 アステラス製薬株式会社 ヤンセンファーマ株式会社
日本イーライリリー株式会社 旭化成ファーマ株式会社 吉富薬品株式会社
大日本住友製薬株式会社 ノバルティスファーマ株式会社
ファイザー株式会社 エーザイ株式会社